

東京都印刷工業組合・全日本印刷工業組合連合会（浅野健理事長・会長）は6月5日、日本印刷会館において東印工組執行部・全印工連在京執行部と業界紙記者との懇談会を開催した。（6月25日、28日付既報）

懇談会では浅野理事長が「印刷工業組合の魅力を一かに強化し、さらにそれをどのように伝えるかが課題になる」と今年度の事業展開の方向性を述べたほか、各出席者から各所管事業における事業方針が述べられた。

懇談会に出席したのは浅野健東印工組理事長（全印工連会長）、山岡景仁副理事長（副会長）、矢部一憲副理事長（常務理事）、利根川政明副理事長（常務理事）、水上光啓副理事長（常務理事）、花崎博己副理事長（常務理事）、工藤久志副理事長（常務理事）、森永伸博副理事長（常務理事）、それに武石三平専務理事（全印工連・東印工組兼任）の9名。今回はその後半部分を紹介する。

△山岡景仁副理事長（生産）  
環境制度教育委員会  
全印工連副会長（環境委）  
委員会では富士フィルム（株）より同社工場内で実現されている同社PS版リサイクルの話が聞かれた。

△古紙リサイクル用紙について  
古紙が不足し100%の生産は行わないことになった。日本製紙では、各県工組の代表と一緒に自治体事情説明をしても構わないと言っている。

古紙配合率の高い再生紙用への可能性があり、委員会ではCO<sub>2</sub>がパーシッパルでは研究に着手しているところである。また、東印工組ではミス



浅野理事長



山岡副理事長



利根川副理事長



工藤副理事長



森永副理事長



武石専務理事

## 東印工組・全印工連在京執行部記者懇談会 後編

# 19年度実施事業についてのコメント

いけないと改めて感じた。事業の項目は様々あるがやはり業態変革第3ステージ「新創業」をどう浸透させていくかだ。

「小企業向け施策の立案と支部への提案」については昨年からの取り組みが、メンバー、ベンダーから見ると小企業に対するアドバイスを、将来的・中長期的にどうなるかという勉強会に取組んでいる。これを引き継ぎやっけていきたい。

運営委員会としては足を強くしていくことに重点を置いている。脱会する組合員が増えており、何とか最少限に止めたい。それ

運営委員会としては足を強くしていくことに重点を置いている。脱会する組合員が増えており、何とか最少限に止めたい。それ

「組合員の集い」は今年3回目の開催になる。前は良かったが、500社出席といっても、また、3分の2が出席していない。「集い」に限らず、できるだけ出席しやすい状況にしたい。

△利根川政明副理事長（事業・共済委員会）  
全印工連も全国同様少し数字が落ちたので挽回したい。

△森永伸博副理事長（組合運営委員会）  
全印工連常務理事（教育・労務委員会）

△浅野健理事長・会長  
19年度の運営方針は総代会・総会でお話したので詳細は当日の資料を読んで欲しい。

△山岡景仁副理事長（副会長）  
環境問題は印刷企業個々

△工藤久志副理事長（小企業変革推進委員会）  
全印工連常務理事（教育・労務委員会）

なお、理事会、総代会が形骸化しているという意見もあり、理事・総代の役割